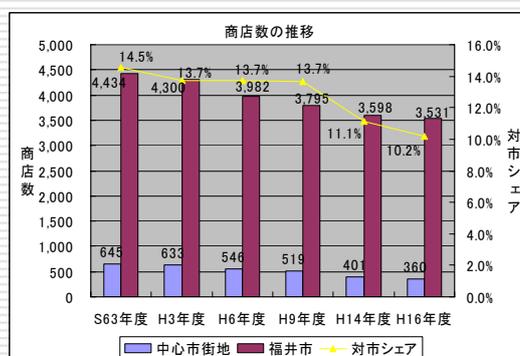


### 3. 商業

図3-1 ■ 商店数の状況

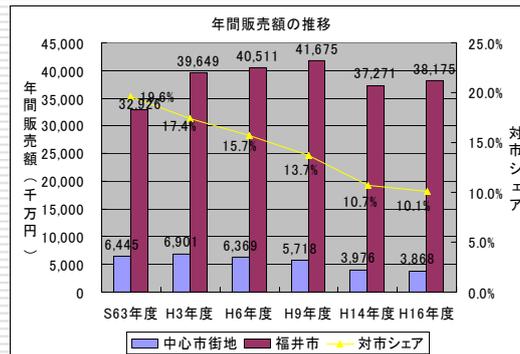
- 商店数について、減少傾向にあり、平成16年度には、平成9年度よりも159店舗(30%)減少している。
- 対市シェアについても、13.7%(平成9年度)から10.2%と、3.5ポイント減少している。



(出典:商業統計調査)

### 図3-2 年間販売額の状況

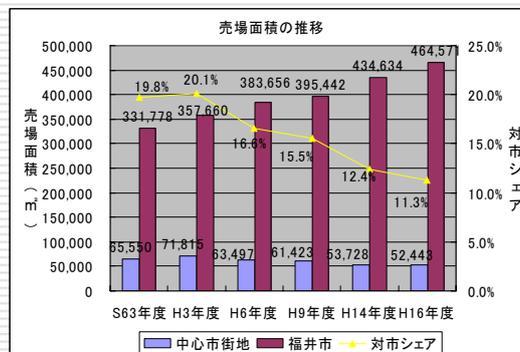
- 年間販売額について、減少傾向にあり、平成16年度には、平成9年度よりも185億円(35%)減少している。
- 対市シェアについても、13.7%(平成9年度)から10.1%と、3.6ポイント減少している。



(出典:商業統計調査)

### 図3-3 売場面積の状況

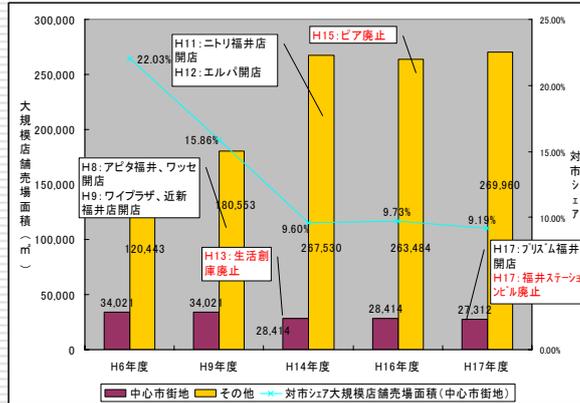
- 売場面積について、減少傾向にあり、平成16年度には、平成9年度よりも8980㎡(15%)減少している。
- 対市シェアについても、15.5%(平成9年度)から11.3%と、4.2ポイント減少している。



(出典:商業統計調査)

### 図3-4 大規模小売店舗の立地状況(1)

- 大規模小売店舗(売場面積1,000㎡以上)の立地状況を見ると、中心市街地以外での立地が進んでいる。
- 一方で中心市街地は大規模小売店舗の売り場面積を減らしており、対市シェアも下げている。



(出典: 庁内資料)

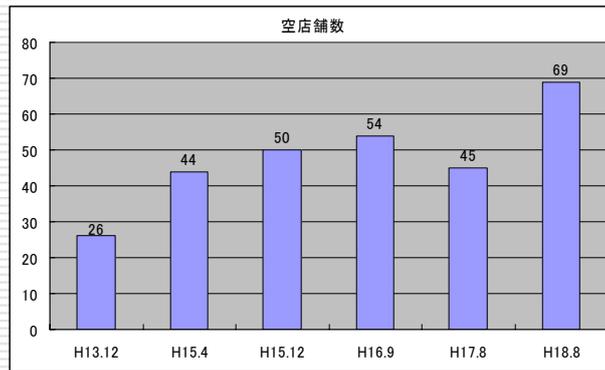
### 図3-5 大規模小売店舗の立地状況(2)



(出典: 庁内資料)

### 図3-6 空き店舗の状況

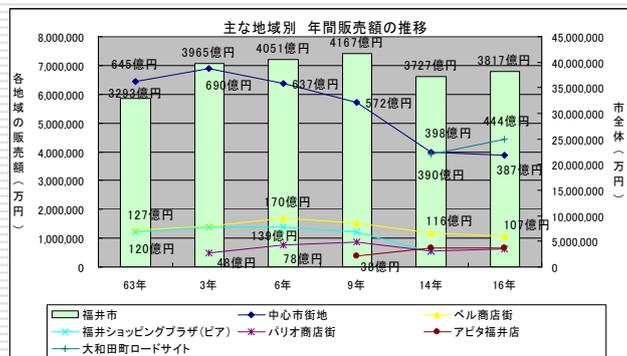
- 中心市街地(中央1丁目)の空き店舗数について、平成13年(12月)から増加傾向にある。



(まちづくり福井㈱)

### 図3-7 主な地域別の年間販売額の状況

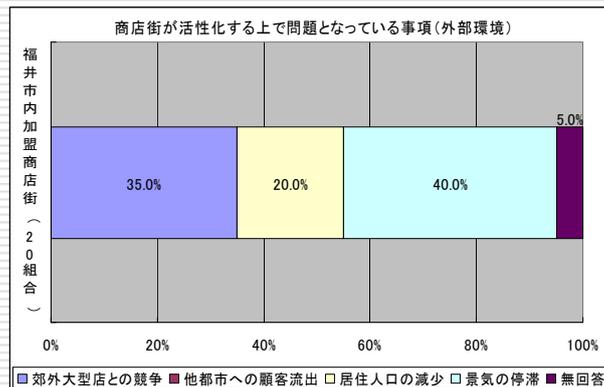
- 中心市街地が大きく減少しているなかで、中心市街地以外での販売額は一定水準を保ってきた。
- 平成16年度には中心市街地と大和田ロードサイドは逆転した。



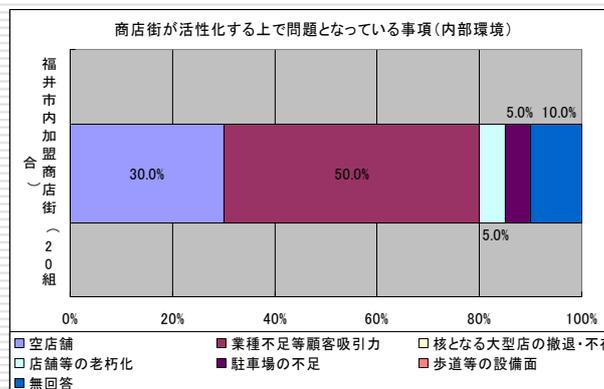
(出典:商業統計調査)

### 図3-8 地元商店街の現状認識(1)

- 地元商店街が活性化しない外部要因(外部環境)として「景気」、「郊外店との競争」を挙げている回答が多い。
- また、内部要因(内部環境)としては「空店舗」、「業種不足等の顧客吸引力」を挙げている回答が多い。

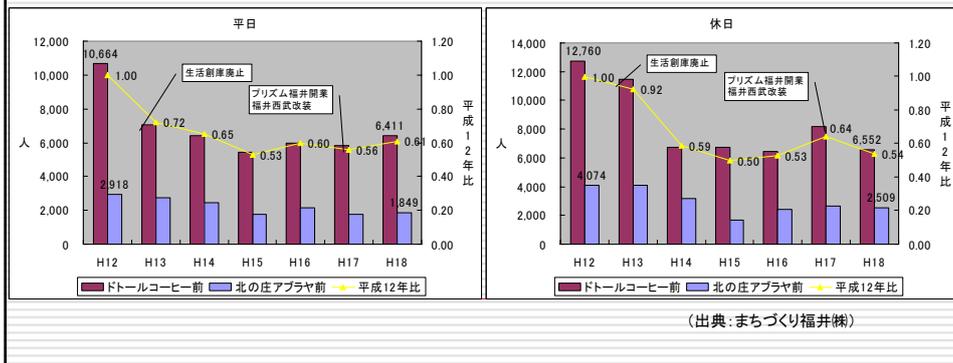


### 図3-9 地元商店街の現状認識(2)



### 図3-1 歩行者通行量について

- 歩行者通行量については、プリズム福井の開店、アーケード整備や賑わいの道づくり事業などによる回遊性の向上によって、これまで減少傾向にあったものが下げ止まってきている。



### 考察(商業)

- ・中心市街地の年間販売額の大幅な落ち込みは、中心市街地以外での商業の伸張が大きく関わっているものと想定される(商業統計:平成14年、16年)。中心市街地以外の地域での大規模商業施設の規制等開発のコントロール手法について検討していく必要がある。
- ・ロフト等の新店舗の誘致、プリズム福井の開業など新たな商業施設の誘致やアーケード整備など歩行環境の整備により、中心市街地における歩行者通行量が下げ止まりに一定の効果が見られる。
- ・今後、より魅力ある商業環境の創出に向けて、更なる不足業種の誘致、テナントミックス等商業の活性化につなげていくことが必要である。